

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年9月26日
タイトル	「くわい」と「農業用水」の出前授業をしたよ！2019
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年5月30日（木）福山市立新涯小学校5年生141名に出前授業をしました。

新涯小学校5年生は、地域の特産物である「くわい」について、くわい農家の方から出前授業で学び校庭にあるミニ田んぼで「くわい」を栽培、収穫し、その「くわい」を使い調理実習をする学習に取り組んでおられます。

その一環で「くわい」について、福山くわい出荷組合の元組合長であり水土里ネット福山元理事の^{えだひろよしはる}枝廣義春さんから農家の方の生の声をお聞きし、水土里ネット福山からくわい生産に不可欠な「農業用水」についてお話ししました。



パネルで分かり易く説明、みんな真剣に話を聞きメモをしています！

「くわい」出前授業の主な内容

- ・くわいは、約1,000年前中国から伝来し、福山市では120年前に福山城のお堀に植えられたと伝えられている。
- ・新涯町では約70年前から本格的にくわいの栽培がはじまり、当時は寒さが厳しく収穫も洗浄も手作業だったため非常に厳しい作業だった。
- ・米以外に転作することが勧められ徐々に増えていき約60年前にくわい出荷組合ができ、約50年前に本格的な共同出荷が始まる。
- ・約30年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり収穫作業が3～5倍速くなり、約20年前に埼玉県を抜いて日本一になった。
- ・くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわい。
- ・今は、正月から土作りをしているところで土に栄養を吸収させている。6月中旬から7月中旬にかけて植付けをする。
- ・植付けするくわいは、前年の収穫時に2SやSのくわいを取っておいて冷蔵庫で保管しておき、植付前に冷蔵庫から出して植える。冷蔵庫から出すとすぐに芽と根が出てくる。
- ・くわいの芽は1m以上に成長し、約1000本に1本の割合で白い花を咲かせる。非常にめずらしい。この花から実もなつて、その種でくわいを作ることもできる。
- ・くわいの栽培は、害虫の駆除と夏の暑さに応じて、肥料をすること。毎年気象条件が変わるので、その年によって対応が違って来る。
- ・収穫は11月中旬からで、毎年11月13日が初出荷で、農協の川口グリーンセンターで紅白の幕を張って初出荷を盛大に行っている。出荷の最終は12月22日頃で、くわいの出荷は1ヶ月半ほどである。
- ・くわいは、そのまま料理にして食べるだけでなく、焼酎やスープ、お菓子に加工して売られるようになった。
- ・くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取る。それから、ポンプで水圧をかけて掘る。

パネルを使って、くわいの葉や花の様子、収穫の様子を説明されました。またホワイトボードに絵を描き、くわいの根がどこから生えてくるかクイズをされました。子ども達は、玉ねぎのように、くわいのイモの底から生えてくるとする子や芽の根本から生えると思う子が多かったですが、実際は、芽の途中から生えてくるそうです。答えを聞いて、びっくりしてどよめきがおこりました。

次に水土里ネット福山より新涯小学校の近くの農地まで計画的に農業用水が取水配水されていることを説明しました。子ども達は、遠足などで行ったことのある福山城よりもっと遠くから農業用水が流れてきていると言うと「へえ」と感心を持ってくれたようです。また、新涯小学校の近くにある土地改良施設を「これ知ってる！登校する時にいつも見てるよ！」と教えてくれる子もいました。樋門や除塵機、排水機といった土地改良施設を身近に感じ、感心を持ってくれたと思います。このことが「子ども絵画展」応募の作品になっています。

また、水路に転落すると危険なため転落防止を呼掛け、福山市上下水道局が提供して下さった災害備蓄飲料水「福山の水」を配布しました。身近にある水路にも危険が潜んでいることを真剣な表情で聞いてくれました。

最後は、子ども達から、大きな声で感謝の気持ちが伝えられ出前授業を終わりました。

水土里ネット福山では、本年度も福山市の特産物である「くわい」の魅力を子ども達の農業体験を通じて全国に発信してまいります。



上の写真は、水路転落防止呼掛けのポスターと災害備蓄飲料水「福山の水」を持ってみんなで水路転落に気をつけようと約束しました。

右の図は、出前授業で説明した農業用水と土地改良施設を示したものです。

